

「第2回教会懇談会を終えて」(2020.3.15)

2月15～16日の教会ミニかまくらキャンドルナイトをもって、2019年度の教会の伝道の営みもほぼ終えた。主の恵みの連続に驚きと感謝を捧げたい。そして、主の体なる教会の一枝として奉仕に汗して下さったお一人おひとりに心から敬意と感謝を捧げたい。

さて、3月になり今年度の反省のもと、次年度の方針を立てる時期になった。主の恵みも一人ひとりの汗も無駄にならないように、御心に添う教会に成長するためにはどうしたらよいか？3月8日礼拝後、第2回教会懇談会が開かれた。

始めに長老会からの提案として、私から2点説明させていただいた。まず祝福と後奏の時の姿勢である。祝福と後奏は、礼拝のクライマックスである。牧師は派遣・祝福の宣言から後奏の終わりまで両手を上げて主の祝福を送っている。その祝福を立てて受ける、という案である。立ち続けていると疲れを覚える方はいつでも座っていいのは当然である。

次は献金当番の集金後の姿勢である。講壇前に二人が、献金感謝の賛美が終わるまで並んで立つ、という案である。献金の心「ささげます、このたからとこのわたし」を代表して示すことができるのではないか、ということである。概ね了承されたと思う。

この後、自由な意見交換が続いた。長老選出についてその人数や休職願いの扱い、奉仕の在り方、年3回の伝道の内容の再検討など、忌憚のない意見交換がなされた。一人ひとりの心に芽生えている事なので、確かに受け止めたい。そして、それらを包みながら、「すべての造られた者に福音を宣べ伝えよ」という教会の使命、この託されている主の御心を心とする教会にさらに成長していけたら、と思う。

今朝(3/12)、アッと驚いた。綺麗な花が咲いているではないか！クロッカスである。教会入り口の掲示板の足元に黄色や白、そして紫の小さく可愛い命が微笑んでいる。落ち葉を押し分け、ムクムクとたくましく、こんにちわ、と挨拶しているように感じた。天と地を創造され、私たちが愛して止まない父なる神の慈しみを覚えることが出来て嬉しかった。「♪来る朝毎に朝日と共に神の光を心に受けて愛のみ旨を新たに悟る♪」心の底から賛美した。

新しい年度も主の慈しみを確信した朝であった。

